

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2019年 9月24日 第1138号



つくば市議会

決算特別委員会・分科会が開かる

議会改革に取り組む議会では、これまでは3名以上の会派から委員を選出し、決算特別委員会を構成して議案審査をしていました。この程の議会活性化推進特別委員会での審議を踏まえ2019年の9月議会より議長（神谷議員）と議会選出監査委員（滝口議員）を除く全議員の委員会が設置された。

各常任委員会が開かる

各常任委員会では、決算審査と一般会計補正予算の審議が行われました。

金子議員の所属する文教福祉委員会の決算審査では、社会福祉法人等に対する指導監査を実施し、入所者等に対する適切な処遇や事業所運営を行っているか否かなど福祉監査の成果につい

ての質疑が行われた。また、敬老福祉大会における長寿を祝福する事業では70歳以上の対象者に対して参加者の実態についての質疑が出されました。

他に児童館運営では、地域組織活動や子育て支援団体の育成について。母子健康診査では、妊婦の健康管理の在り方や乳幼児期の取り組みなどについて。学校教育活動支援・助成では、支援事業や助成事業での成果について。

教育相談センターにおける相談・指導・助言の取り組みについて。文化財展示施設管理では、多様な施設の一元化の取り組み。学校給食センターの在り方。特別支援教育での相談事業について。

特別支援教育支援員の配置事業では、目的である共生社会の形成に向けて、障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒がともに学び合える環境を整え、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加をめざして、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援ができるようにと目的を定めているが、その成果についての説明が求められた。初めての試みである全員参加の決算特別委員会&委員会負託の分科会でありました。

子ども部、保健福祉部、教育局の事業全般わたり詳細な質疑が出された。

家庭内暴力、止める方法あり⑥

どうしても入院する場合は、退院後の居場所を考えておいて下さい。入院を機会に、単身生活をさせること等も検討する。親がお金を出すので、生活についていろいろ条件をつけても構いません。そうした治療契約を入院時にしっかり結べればいいですが、漫然と安易に入院させるのは、後々禍根を残すことになりかねず、くれぐれも気をつけて下さい。

——元農水事務次官の事件では、行政を熟知しているはずの容疑者が、なぜ支援につながらなかったのでしょうか。

しっかり毅然としてやっていれば、暴力は抑えられたと私は確信しています。専門家に相談すると、「それは入院ですね」「通報したらどうですか」といったアドバイスは受けるかもしれませんが、それだけでは具体的な方法が分からない。記事などでも、「1人で抱え込まずに、専門家へ」というアドバイスで終わることが多いですが、全く具体性がない。雑な逮捕や避難は、逆効果の場合もある。私は自分の経験に基づいてやり方を洗練してきましたが、どう避難するか、どう通報にもっていくかを具体的に考えなければいけません。

もし、相談できる専門家がいなくても、こうした方法論でなんとか対処できると思います。暴力を拒否するのは自然なこと。つらいから避難するのも、ひどい暴力を受けたから通報するのも、常識的な話です。まずは常識にのっとして対応してみてください。

ゆっくりしたペースで

また本人に対して急に詰めるのではなく、ゆっくりとしたペースでやって頂きたい。例えば、病院などに相談に行く場合、最初は本人は行きたがらないので、相談に行くのは親だけです。そのときは、月1回ぐらいのペースで通いながら、その都度、本人

を誘う、という感じで進めてください。毎回説得したり議論したりするのではなく、まずは親が通ってみせる。通ってみせながら、一声かけると、という感じです。

暴力に悩んでいる家族は、まず家族会につながってほしい。家族会で情報を得たり、支援機関を知ったり、対応方法を学べたりできます。

私の方法論は、夫婦間の暴力、DV臨床の方法論が根拠です。夫婦間暴力で培われてきた通報・避難という手法を、子ども向けに洗練していった。この方法で20年以上暴力と向き合ってきました。自分の経験でしかないが、この方法でほとんどの暴力は収まっている実感がある。試してみる価値はあるんじゃないでしょうか。

——高齢となった親にもできるでしょうか。

もう70、80歳の親が「毅然と拒否」なんて言われても、難しいのは分かります。なかなか出来ない。世間を気にして通報もできず、どこかに逃げろと言っても、行き場所もない、ということもある。「実行が難しい」と言われるのは、よく分かります。

親はケガをしたら入院へ

親が高齢の場合は、もし暴力でケガをしたら、大騒ぎをして、救急車を呼んで、入院してください。効果はてきめんです。入院治療を1カ月ほど受けて、帰宅すると、ほとんどの暴力はおさまっています。「子どものために辛抱して、ケガをおして、家事をする」というのは、やめてください。ケガをしたら、大騒ぎして、入院する。これは、高齢の方でも出来るはずです。本人は間違いなく罪悪感を感じている。暴力を振るいたくないんです。ただ、その罪悪感が固定しないので、固定する経験をさせるために、離れることが必要なんです。入院というのは、最高の口実です。入院するフリでもいいんです。(おわり)